

赤い兜と鎧を身に着けた真田の
甲冑隊による照姫行列への参加



全国につながる
連携の輪 練馬区

37年に渡る交流で絆はより強固に

少年自然の家開設がきっかけ

上田市は、練馬区から直線で約190キロの距離にあり、人口16万人を擁する長野県東部の都市です。北は上信越高原国立公園の菅平高原、南は八ヶ岳中信高原国定公園に指定されている美ヶ原高原などの山々に囲まれています。

練馬区との交流は、1980（昭和55）年に当時の武石村に区立武石少年自然の家「ベルデ武石」を開設したことを契機に小中学生を中心とした交流が始まり、1994（平成6）年に武石村と「友好提携に関する合意書」の調印を行いました。その後、上田市、丸子町、真田町、武

練馬区と長野県上田市との交流は武石村からの交流を含めると、今年で37年になります。この交流は武石村が4市町村合併で上田市となつてからも引き継がれ、友好都市として、今日までお互いの絆を深めています。昨年はNHK大河ドラマ『真田丸』の放送で、交流にも華を添えました。今年は上田市の農作物がひょうによる被害にあったことから、10月の「練馬まつり」ではひょう被害で傷付いたものの、味の良さには定評のあるりんごの販売を行います。

大河ドラマ放送を契機に交流も深化

石村の4市町村が合併し、上田市となつた後も引き継がれ、37年に渡る交流を続けています。



練馬区から上田市に派遣された起震車「ねり丸号」



照姫まつりで照姫・真田甲冑隊とともに関の声を上げる前川耀男練馬区長と出演者の皆さん

また、練馬区と上田市は、2013（平成25）年には災害時における相互応援に関する協定を結んでおり、地震などにより大規模な災害が発生した場合には相互に職員の派遣を含む総合的な応援を行うなど、連携の絆はより深まっています。今年も練馬区が行った防災フェスタに上田市が給水車を派遣して給水訓練を行い、上田市で行われた防災訓練には、練馬区から、17種類の地震の揺れを再現できる起震車「ねり丸号」を派遣しました。

大河ドラマで一躍注目浴びる

2016（平成28）年は、練馬区と上田市との交流にとって大きな節目となりました。上田市を舞台としたNHK大河ドラマ『真田丸』が放送されたことです。

練馬区にある複合施設ココネリの3階にある産業・観光情報コーナーには、1月から12月までの1年間、上田市のPRブースが設置されました。上田市の観光パンフレットや上田市の「信州上田真田丸大河ドラマ館」の割り引きクーポン券付きチラシを配布しました。また、六文銭を



練馬区立石神井公園ふるさと文化館で開催された「信州上田真田ギャラリー展」

あしらった扇子、タオル、キーホルダーなど10種類のグッズを販売。真田家ゆかりの史跡などを紹介している上田市のPR映像を放映しました。

一方、上田市の「信州上田真田丸大河ドラマ館」では、練馬区の魅力を来場者にPRしました。

毎年4月に石神井公園およびその周辺で開催される「照姫まつり」には2015（平成27）年から上田市

が参加しています。赤い兜と鎧を身に着けた真田の甲冑隊による照姫行列への参加や、信州上田真田陣太鼓保存会の皆さんによる迫力ある太鼓の演奏が行われ、来場者から大きな拍手が贈られました。会場には上田市のブースが設けられ、物産品（野菜・山菜・味噌・そば等）の販売や、上田市の魅力のPRも行われました。

石神井公園に近い練馬区立石神井公園ふるさと文化館では、2016（平成28）年4月29日から5月31日にかけて、「信州上田真田ギャラリー展」が開催されました。真田氏ゆかりの地を中心に観光スポットを紹介することにより、上田市を身近に感じ、親しみをもってもらおうという企画でした。

7月には、上田市となつてからの友好都市提携10周年を記念し、練馬区の公式アニメキャラクター「ねり丸」と上田市の真田丸応援団キャラクター「真田幸丸」を使った交流促進グッズを作成し、区立小学校の児童などに配布しました。

グッズはノートとペンの2種類。「なかよしノート」と名付けられた自由帳には、「ねり丸」と「真田幸丸」

上田市との友好都市提携10周年を記念した交流促進グッズ（ノートとペン）



が描かれ、上田市の場所や観光情報が紹介されています。

毎年10月に開催され、練馬の秋の祭典として定着している「練馬まつり」には、「照姫まつり」にも参加した信州上田真田陣太鼓保存会が昨年初参加し、多くの観客が集まりました。

練馬区から上田市へは、車で、練馬インターから関越自動車道と上信越自動車道を通って、日帰り圏内です。さらに長野方面への新幹線の開業により両区市の距離は縮まりました。『真田丸』が起爆剤となり、上田市は練馬区民にとって注目の観光エリアとなっています。

今年、上田市の上田城跡公園では、特別企画展「400年の時を経て甦

る上田城」を11月30日まで開催しています。8月1日付の「ねりま区報」では、ミニガイドで企画展を紹介し、練馬区民へのPRも行いました。

上田市のひょう被害でも練馬区が協力・連携

上田市は今年5月、ひょうにより農作物に大きな被害を受けました。被害面積は97・7ヘクタール、金額にして3469万円の被害が出たということです。同市はりんご、桃、なしなどの産地ですが、りんごやぶどうが未成熟なうちにひょうによる被害で傷付いてしまいました。市やJAが全国の自治体を回って協力を呼び掛け、友好都市である練馬区にも協力の依頼がありました。

今年10月15日（日）に開催される練馬まつりでは、通常の特産品（野菜・果物・味噌・そば等）の販売ブースのほかに、上田市のひょう被害について説明したパネル展示も行うほか、ひょうによる被害で傷付いたものの、味の良さには定評のあるりんごを安価で販売します。

武石村時代からの交流を含めると37年という長きに渡る練馬区と上田

市との交流があるからこそ、両区市の関係は、年月を重ねるごとににより強固なものとなっています。だからこそ、ひょう被害に遭った上田市のピンチにも、練馬区は「協力し

よう」と支援に乗り出しています。これからの練馬区と上田市の交流は、こうした連携を積み重ねることによって、さらに深まっていくことでしょう。

東日本大震災では宮城県亘理町を支援

練馬区では東日本大震災で被災した宮城県亘理町の復興支援のため、区職員を長期派遣しています。被災直後から2011（平成23）年6月まで9次にわたる支援隊を派遣しました。

第3次支援隊からは上田市の職員

も加わり、現地の吉田小学校に、練馬区と上田市の支援隊本部が設置されました。両区市による現地支援活動は平成23年6月6日が最後となりましたが、避難者の皆さんは、各支援隊が活動を終えるたびに温かい拍手で送り出してくれました。

その後も、練馬区は長期派遣として復興計画の策定をはじめ、災害公営住宅の建設や介護保険等生活再建、災害援護資金の給付、道路等震災復興に関する業務などの支援を行ってきました。現在は1人の職員を派遣し、震災復興計画に基づく避難道路の整備に関する業務などの支援を続けています。



亘理町に設置された練馬区と上田市の支援隊本部